

模擬アフリカ連合会議(Model African Union)

1. 活動時期 7月～8月20日

高校2年 兼吉 舞衣

2. 活動の概要

模擬アフリカ連合会議(MAU)は、UNDP(国連開発計画)、国際協力機構(JICA)、上智大学が共催している、TICAD9テーマ別イベントの第2回として開催されたプログラムです。アフリカ各国の代表を務める学生たちが、経済・若者政策・教育などの重要議題に関する決議案を発表し、公式討論と採決を通して合意形成に挑みます。

私は南アフリカ共和国の代表団として、日本人大学生と南アフリカ人の大学院生と約2ヶ月間、オンラインや対面で活動しました。会議本番に向けて、文書やスピーチ原稿の作成、オンラインでの事前会議を行いました。

会議は2日間にわたって開催され、1日目は私の担当分野である「財務、金融問題、経済計画、統合」に関する専門技術委員会で議論を行い、決議案を作成しました。2日目は、各委員会の決議案の発表と採決が行われる模擬総会に参加しました。

その結果、南アフリカ共和国代表団は「The Best Delegation Awards」を受賞しました。また、20日の夜は「Cultural Evening」と呼ばれる、アフリカと日本の文化交流イベントが行われ、とても充実した時間でした。

3. 感想

①学んだこと・得た視点

これまで模擬国連に複数回参加してきましたが、今回は特にアフリカの若者に焦点を当たった議題を扱うことで新しい知識を学ぶことができ、視野が大きく広がりました。また、高校生だけでなく大学生やアフリカ出身の方々とも交流することができ、とても刺激的で新鮮でした。

②困難とその克服

私は帰国生ではないため、英語で専門的な議論を行うことに不安がありました。最初の頃はチームメイトとの会議でも翻訳機を使って必死に追いついていましたが、英語の資料を読んだりスピーチ原稿を作成し始めると徐々に抵抗が薄れていきました。会議本番のスピーチでは緊張しながらも読み遂げることができました。終えられた時の達成感は今でも忘れられません。

③印象に残っているエピソード

Cultural Eveningの際、アフリカの方々のノリの良さに驚きました。DJが音楽をかけると、ラッパーが英語でラップを披露し、観客はジャンプしたり踊ったりと大盛り上がりでした。私は浴衣で参加し、アフリカの伝統衣装を身にまとった方々のファッショショーンショーを見ることができました。このイベントならではの国際的な雰囲気を味わうことができ、貴重な体験となりました。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス(こんな生徒にオススメ)

英語で日常会話ができ、国内でさまざまなアフリカの方々と話してみたい人におすすめです！大学生とも交流できるので、進路について考える良いきっかけにもなります。

また、応募時には代表したい国を選ぶことができるので、事前に興味のある国について調べておくと良いと思います。そして何より、このイベントに限らず「やってみたい！」と思ったら迷わず挑戦してみてください。参加する前と後では、自分でも驚くほどの大きな学びと成長を得ることができるはずです！！



MAUの加盟国



南アフリカ共和国のブレスレット



南アフリカ共和国代表団